



盲学校の子供たちを 海とBBQに招待する プロジェクト

- 実施日：令和6年9月7日
- 実施場所：横浜市金沢区海の公園
- 実施者：鎌倉中央ロータリークラブ

プロジェクトの目的

厳しい環境の中でひとりひとりの個性を大切にする教育に奮闘する学院の、先生、職員、親家族そして障害を持つ子供たちを応援するプロジェクトです

レジメ

- プロジェクトの概要
 - 訓盲学院の紹介
 - 海の公園の概要
 - ボランティアの紹介
- プロジェクトに対する関係者などの意見・感想
 - 計画段階
 - 実施後
- 今回のプロジェクトでのポイント

横浜訓盲学院の紹介

- 障害の度合いが大きい、又は、事情があって親元から離れて寮生活をしているなど、**重複障害**を持つ子どもたちの**最後の砦**とされているのが横浜訓盲学院です。
 - 3才から18才までの重複障害を持つ30人の子供たち
 - ・19名が通学し、11名が学院寮で生活しています
- 重複障害とは、目が見えない、耳が聞こえない、あるいは歩行困難など二つ以上の重複した障害を持つ子供。







訓盲院の生徒と会う ヘレンケラー女史
(横浜開港記念会館にて)



レイ・チャールズさん(昭和39年8月)



巨人軍の川上哲治氏が訓盲院のグラウンドで
盲人野球を体験

心から喜んでもらえる企画を探る

- 何度もヒヤリングを重ねました。
- 提案し反応をみて、都度修正していき学院の皆さんの意向に沿った内容に仕上げました。
- 出前水族館案は子どもたちには難しすぎると却下される
- 海に行ったこともない子供たちも多く、海の公園で遊びBBQを楽しめる案が一番人気でした

子供たちが安心安全に遊べるために (不安材料をなくす)

- 外に出るだけでも、恐怖を感じる子供たちも多い
 - 日ごろから接している人達の同行と協力
 - 働き手としての補助者（ボランティア）
 - 子供たちと会話を楽しめる補助者（ボランティア）
- 夏場のイベントの危機管理
 - 医療従事者（医師、看護師、保育士のボランティア）
 - 熱中症対策
- 海を楽しむための道具
 - 水陸両用車いす・マリンシューズ

海の公園について

■横浜市金沢区

■バリアフリーで安全に遊べる

- ◆海辺には、約 1 kmにわたる人工の砂浜と豊かな緑が広がり、海と人とがふれあえる貴重な憩いの空間
- ◆園内には、マリンスポーツ施設があるほか、芝生のグラウンドやバーベキュー場があり、さまざまな海辺のレジャーを楽しむことができる

ボランティアの紹介

■明治大学 体育会 ボードセイリング部（23人）

◆私の知り合いだった同部監督にプロジェクトを相談したら、『学生に是非ボランティアの経験をさせたい』との事で参加頂きました。

■医療従事者 歩行訓練士など（8人）

◆当クラブのメンバーの知り合いの教会関係者からご協力を頂きました。





学院寮の子供たちこそ連れていきたい

【課題】

学院寮生活の子供たちは、親のサポートがないため参加させるのが難しい

【対策】

- 寮職員の皆さんの献身的な協力
- 学院の先生方の理解と協力
- 医療従事者のボランティア
- 学生ボランティア







トビカミ!

ME WCD PO FI

ここは、有料施設です





ロータリークラブに対する偏見

- プロジェクトを準備する中、一般の方と企画内容をお話ししたところ、RCがそんなことをしているなんてびっくりといわれました。
- ロータリークラブはお金持ちが自己満足として施しをしているところと思っていたとの感想がありました。

世界で良いことをしよう (財団制度は素晴らしい)

- 補助金を財源として出してくれる、補助金プログラムは素晴らしい制度であると思います。
- 完了報告書などチェックリスト、管理運用については確かに煩雑で細かい部分がありますが、使ってよい財源として頂戴できるのは素敵な制度だと思います。



ボランティアに参加して感じたこと (ボードセーリング部員)

- 盲学校の子供たちに楽しい経験をしてもらうお手伝いというかたちでかかわったが、かえって自分がパワーをもらえる機会となり、ボランティアを通じて**他人のために何かをすることの素晴らしさ**を感じた。
- 訓盲学院の生徒は盲目や他の障害があったとしても、自分のような**健常者にも勝る精神力を持っていると感じた**。
- BBQを焼いたり、運んだり、お話をしたりしただけなのに**心の底から感謝され喜んでもらい、とても嬉しかった**。
- 今回の機会を通じて**当事者意識を持つようになった**。自分たちに直接関係がないと感じていたことでも、体の不自由な方々にできることは多くあると感じた。

訓盲学院の先生からのメール

- 海の公園でのBBQや海遊びは子供たちにとって、**大変素敵で貴重な経験であった**と心から感謝いたします。事前の十分な準備をしていただき、**安心して障害の重い子も参加出来ました**。至れり尽くせりの企画でした。
- 子供たちにとって少し大きいお兄さん、お姉さんに話しかけてもらったり、海で一緒に遊んでもらったりとても**楽しい思い出になった**ようです。
- 親や職員も**子供達が喜んでいる様子を見て何より嬉しかった**ようです。
- ありがとうございます。

小学5年そら君のお母さんからのメール

- そらは肢体不自由で視覚障害がある子です。バーベキューもミキサーをかけなければ食べられません。そんな子ですから、海で遊びBBQとはハードルが高いと思っていました。初めて親子で海に入り水陸両用車いすを使い遊びました。初めてBBQを皆さんと一緒に楽しませてもらい、そらもとっても喜んでいて、その姿を家族で見ることができ、本当にありがたく、嬉しかったです。あのような素晴らしい機会にご招待いただき、夫婦で心から感謝しています。最後にあたたかいエールまでいただき、涙をこらえるのに必死でした。

